

いままでの歴史

新聞をななめ読み、週刊誌を読み飛ばし、倍速モードでニュースを見れば、よくわかる、すぐわかる、最近の歴史。

【文化】

京都の服飾文化、音楽文化発展へ寄与
ロマン吉忠、京響にユニフォーム贈呈

京都市中京区に本社を置き一八七五年の創業以来一二〇年間にわたって服飾を通じ「女性美」を追求してきたロマン・吉忠株式会社が、その記念事業の一環として、京都市交響楽団の団員八七名に演奏会用オータマーメイド・コスチュームを贈呈。また「京響ポップス シネマティック ロマン」と銘打ったコンサートを、十月上旬にオープンした京都市左京区の京都コンサートホールにおいて開催、コスチュームを市民に披露する場とすることなった。贈呈されたコスチュームはファッションを中心とした企業文化の地元還元を目的としたもので、京都で生まれ、創業一二〇周年を迎えたロマン・吉忠が平安建都一二〇〇年を経過した京都への思いを込めてデザインしたという。

コンサートの開催は次の通り。
「京響ポップス シネマティック ロマン」

日時 平成7年11月30日 19時開演
会場 京都コンサートホール
演奏 京都市交響楽団

指揮 井上道義

主催 京都市

京都市音楽芸術振興財団
企画・特別協賛 ロマン・吉忠



ここまできたら後はもう、変形して、合体して、空でも飛ばせるしかないな。

【技術】

警告し、軌道修正し、さらに止まる
究極の安全技術、ASVの驚く内容

今、自動車業界が進んで開発しているのが、クルマの高度な安全技術。中でもそれを集約したといわれる「ASV（先進安全車）」の内容はスゴイ。レーザー派を利用して道路を横断しようとしている歩行者を45メートル手前で検知し、運転者に警告を発した上、いきが作動するというのだ。また、このクルマは右左折の際に後方や横から別の車が近づいてくるとクラクションを鳴らして運転者に知らせるほか、車線を外れそうになると警報で警告し、逸脱しそのまま走行するとハンドルを自動操作して元の車線に戻すというのである。

ここまできたら、もう装置とかパーツではなく、ロボットに近い。

そしてこのASVはトヨタ、日産、マツダ、三菱、ダイハツといった国内大手五社が既に試作車を完成させ、この技術の凌ぎを削っているというのだ。

だが、エアバックすらすべての市販車に搭載できていない日本のクルマ事情を考えると実用化はかなり先のこと。

【科学】

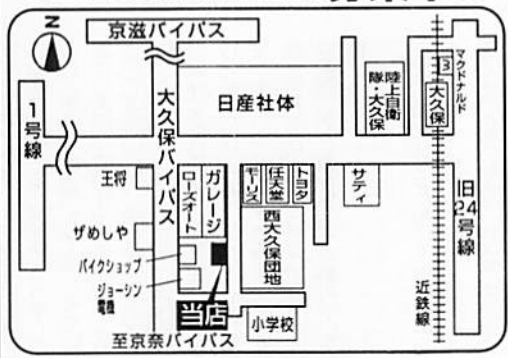
「理論は小難しいばかり」という人へ
夢にあふれる理論上のお話をひとつ

SFファンならずとも、映画「バックトゥザフューチャー」のテロリアンのように、現実には誕生してほしいと思うのがタイムマシーン。誰でもこれを使いたいと思っている反面、現実化することはないと思っている。しかし、あのホーキング博士がタイムトラベルができると発言したというのだから、もしかすると、夢のタイムマシーンは実現する可能性はある。

それまで博士は「タイムトラベルは不可能」と言い続けてきたが、最近になって「迅速な惑星間旅行の行き着く先の一つ」と自説を転換。さらに「一般的相対性理論と量子論を結び付ければ、タイムトラベルは可能」といいたしたのだ。何やら難しい話だが、取り敢えず、タイムトラベルはできると肯定したのである。ただ、これはまだ理論上の話。理論だけじゃ実現できないと非難する人もいる。しかし、理論だけでも可能性が出てきたから、夢のつづきはまた見られそうだ。

いじくと News は 使 い よ う

SNOW BORD
TEAM RIDER募集中!!



BOARDING SPORTS

〒611 京都府宇治市大久保町旦橋130-10安田ビル3F

TEL 0774-44-3115



スカした兄貴のために痛くもない腹を探られるなら、大二郎知事が気の毒?

【政治】

いまや大問題の官官接待 各地方自治体の対応は?

住民の税金の最大の無駄遣いは、何といつても公務員や官僚同士の接待費。いままで、その名目は「食糧費」と住民にわからないうような区分がされてきたが、ここ数年の間にくっつかの地方自治体で膨大な食糧費が使われていたことが暴露され、今では周知の事実になっている。

だから、一九九六年度から様々な自治体でこの食糧費が見直され始めた。しかし最大の見直しをしたと表明している秋田、大分、東京でも、その額は前年度の3割程度の削減。それ以外の自治体は何やかんや会議をしても、結局は凍結してしまっているという次第。

税金で給料をもらっているヤツらが、遊び金までも税金を使い放題、この住民をバカにした状態は変わっていない。

しかしよく調べてみると食糧費予算をゼロにした県がたつたひとつだけある。それは橋本大二郎が知事をしている高知県。県民からすれば思い切ったゼロにしたのは拍手ものだが、彼はあの自民党総裁、橋本龍太郎の弟。今のところクリーンなイメージはあるが、後で何か企んでいるのかも……。

【現象】

年々増え続けるお気楽海外挙式 あゝ日本の美しき伝統やいづこ

日本独特の格式や常識は年々失われていく傾向にあるが、どうやら結婚式までそうだった現象が表れてきている。

東京の総合ブライダルサービスの大手「斉藤」が、昨年一年間に結婚したカップル二千三百七十組にアンケートを実施したところ、海外挙式が前年から約三倍にも増えたというのである。海外挙式を選んだ理由としてあげられたのが、結納がいらない、仲人もいらぬ、招待客を呼ばなくていい、そしてカッコいいというものが、つまり、煩わしいことをほとんどしなくていいのが人気の秘訣のようだ。

また、海外挙式を行う先として多いのが、ハワイ、オセアニアという順番。つまり箱を入れたらハネムーンのついでに挙式しようという感覚なのだ。

確かに盛大な結婚式を閉じて、大勢の招待客の前で「新しい門出を向かえる二人へのお力添えを……」といったも、実際にその後の生活にお力添えしてくれるのはほんの一握り。今の世の中、若いカップルにとって普通の結婚式を挙げることは価値がないのである。だからこの傾向は年々強まるはず。



原潜にはやっぱスタイリングと安全性と強さがなくちゃねえ。

【トラベル】

それでもシラクを責められるか? 日本人目的の『原潜北極ツアー』

沖縄へ行くより、海外のタイへ遊びに行くほうが安くつく、そんな不思議な日本人の旅行事情。だから、「ただ海外へ行くなんて飽きちゃった」などと贅沢発言をしている輩まで出てきて、「アマゾン秘境探検」とか「ガラパゴス諸島珍獣見学」など、「なんでわざわざ」と思うようなワケの分からないツアーが登場している。

そんな日本人目当てなのか予算不足に苦しむロシア海軍が、新たにツアーを組んで旅行業界に首を突っ込んできたというから驚きた。

そのツアーとは、軍備削減でお役御免となった原子力潜水艦を使って北極点へ行く「原潜北極ツアー」。

ロシア海軍当局者の話によると「政府が十分な資金配分をしないので、我々は少しでも金を稼がねばならない」という理由からこんな不思議なツアーを考えたらしい。だが、軍事専門家の見解によると、「修繕していないロシアの原潜は放射能漏れが多く、艦内が基準以上の放射能レベルになっている」という。興味と勇気のある人は是非ご参加を。